

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	環境緑地論 [Theory of Environmental Green Space Conservation]				実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○
科目コード	710017	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	中野 光謙				学位授与の方針 との関連	DP1(1)	
授業概要	<p>本授業の目的は学生達が、良好な緑地環境を保全・再生し、生物と共生する地域社会づくりを実践することが出来るようになることです。 緑地環境を保全・再生するために必要な技術と政策について、緑地生態学の観点から解説します。この授業では緑地として、森林、草原、都市公園といった陸域の緑地に加えて、河川、湖沼、水田、水路、ため池といった水域も含めて扱います。これらの緑地の保全について、計画の作成、設計、管理の段階ごとに解説します。</p>						
関連する科目	水辺環境論、環境調査及び再生論、ビオトープ論、環境緑地論実習、水辺環境論実習						
授業の進め方と方法	授業の前半は講義を聞きながらワークシートに取り組みます【知識・理解の獲得】。後半は、小テストや課題に取り組み、前半の学びを発展させます【汎用的技能の育成】。						
授業計画	<p>第1回 概要 授業全体の内容や進め方等について理解します。</p> <p>第2回 緑地生態学の方法 第3回 自然保護区 第4回 緑地計画 緑地を造成するための計画の作成に必要な事項について学びます。</p> <p>第5回 樹林と草地の設計 第6回 水辺環境の設計 第7回 鳥類の生息環境の設計 第8回 昆虫類の生息環境の設計(1)トンボ類 第9回 昆虫類の生息環境の設計(2)ホタル類 第10回 両生・爬虫類の生息環境の設計 第11回 魚類の生息環境の設計 第12回 陸生・水生貝類の生息環境の設計 それぞれの分類群が生育・生息可能な緑地を造成・維持するための方法を学びます。</p> <p>第13回 生態学的植生管理(1)陸域 第14回 生態学的植生管理(2)水域 緑地において良好な植生と動物相を保全するための、維持・管理について学びます。</p> <p>第15回 緑地が直面する現在の課題 生物多様性の危機等の地球環境問題の解決に向けて、緑地を有効に活用する方法を学びます。</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緑地の造成・管理に必要な幅広い知識を獲得する。【知識・理解の獲得】 2. 動植物の生物多様性を保全するために必要な知識を獲得する。【知識・理解の獲得】 3. 自然環境を保全するための方策を自分で考え出す思考力を養います。【汎用的技能の育成】 						
授業時間外の学修	予習は必要に応じて授業中に指示します。復習については、毎回の授業後に20～30分間程度、各自でノートと小テストを再確認してください。						
課題に対するフィードバック	小テストと課題は評価後返却し、解説します。	評価方法			提出物(ワークシート、小テスト、課題等)100%で評価します。ただし、出席すべき日数の3分の2以上の回に出席することは要件です。		
テキスト	なし						
参考書	『緑地生態学』井出久登ほか 著(朝倉書店) 『改訂6版 環境社会検定試験?eco検定公式テキスト』東京商工会議所 編著(日本能率協会マネジメントセンター) 『水辺環境の保全—生物群集の視点から—』江崎保男ほか 著(朝倉書店)						
備考							